

# 特産品開発 今後の支援・取組みについて

## 第三セクターでの運営も / 町長



やまもと ひさお  
山本 久夫 議員

### 問

黒潮町農産物特産品開発推進奨励交付金制度を平成十九年度から実施し、十九年度と二十年度の実績では、合わせて八件の品目に合計七十四万九千円を交付し、また二十一年度も継続事業としている。

町として将来、黒潮町の特産品となる農産物を開発する目的で、申請のあった生産者に対し奨励金を交付し農産物や商品を生産してもらう取組みであるが、承認したそれぞれの品目についての実績状況及び今後の支援や取組みについてどのように考えているのか。また平成二十一年度当初予算において、休所した保育所を改修し特産品の加工施設の整備等も計画している。

施設を整備することは良いが、施設運営を誰が責任を持つてやるのが重要である。町長は施設運営について指定管理者でやるのか直営でやるのか具体的な考えがあつて取組んでいるものと思うが、施設運営について具体的な方法を聞きたい。

一次産業の振興において「特産品開発」などという言葉は

行政が一番よく使うが、そのための支援をしないのも行政が一番である。補助金をやることや施設を造ることが支援と考へ、その後の生産者に対する指導や運営方法など具体的なものはすべて生産者任せになっている。特産品開発関係の事業は、公の施設を使用し多額の予算をもって計画している事業である。農協、漁協、商工会等とも協議しながら生産から販売まで、行政の支援がなければ成功しないものと考えらる。

特産品開発のための施設が特産品にならないよう行政の果たす役割が重要なものと思ふが町長の考へを伺いたい。

### 答

下村正直 町長

松田 二 産業振興課長

支援した品目について、特産品として推進していけるものに対し、「黒潮印」の認証を行ない地産外消的に県が都心に設置するアンテナショップ等において推進して行きたい。

特産品加工施設については、特産品開発の基地と位置付け

今後三年間の中で、町有地などを活用し一定の加工施設を作つて行きたい。  
認証制度を設け特産品協議会により取りあえずは運営を考へている。そしてそのうちに営利目的とした会社という

ようなものに育て上げたい。  
計画した筋道が、うまくいかないようであれば、第三セクターというような形にでもしなければならぬと覚悟している。



地元こだわった商品が生まれている